

6/29 全体企画参加の皆さんへ

【映画サークル 第1回鑑賞会の報告】

6/10、8人の参加で行いました。

近隣に住む東洋人の慣習、作法に次第に心を開いていく主人公。衝撃的なラストシーン。

主演・監督のクリント・イーストウッド、やっぱりさすがでした。

第2回鑑賞会のご案内

※ 7月 9日（火） 9：15 集合、9：30 上映開始

※ ウイングス京都（中京区東洞院六角上る）2F シアター室

※ 鑑賞料金 1,300 円（上映後、近くで昼食合評会行います）

作品 「バルトの楽園」（134 分 松平健、高島礼子、阿部寛、國村隼
他）

☆ この作品は史実です。徳島県坂東（淡路島抜けて車 20 分）には、今もある
ドイツ館で、この模様が展示されています。

☆ ドイツ兵俘虜の人権を尊重した収容所所長は当時、全く稀有な存在でした。

☆ だからこそ、ドイツ兵は祖国の様々な文化文明を坂東の人々に伝授しました。

製菓→パン、ケーキ特にバーム（木の幹）クーヘン、ケチャップ。

牧畜→ハム、ソーセージ。スポーツ→鉄棒、サッカー。理化学→昆虫標本。

これらは、坂東から日本全国に広がっていききました・

☆ その中でやっぱり一番は、ドイツ兵が「第九」を日本初演した事です。

☆ この映画の人権、友好、絆は紛争続く現代にも通じるものです。

【朗報】

会場の、ウイングス京都の1Fフロアラックに、「腑抜け NO 会」ニュースを掲示して
いただける事になりました。